

染香 ぜんこう

福泉寺寺報
令和5年12月
第121号
毎月1日発行

ホームページ



お寺 LINE



子ども行事



母を送って

「腹膜がん」によって、その生涯を終えまし
た。昭和二十八年生まれ、姉が七歳、私が四歳
のころに離婚し、かわいい子どもたちと楽し
い日々は、働きづめの毎日に変りました。女
手一つで家庭を支えました。小学校のころは
地域や学校の行事はほとんど必ず顔を出して
くれました。遠足の弁当も覚えています。思春
期の長男に悩まされ、すべてを投げ出そうと、
子どもたちを連れて橋の欄干に掛けたことも
ありました。隣の両親、兄弟、友人も支えに
なつたと思います。

昔、看護婦の夢を両親に阻まれたことから、
我が子には自由に道を選ばせたい、しかし
世の中は学歴社会だ、ということ、身の丈を
考えず借金をこさえ、子ども二人は国立大を
卒業しました。

このころから、「三人家族の三世帯」では家
計が持たないということで、母は、当時姉が住
んでいた横浜市鶴見区へ住まいを移しました。
仕事を見つけ、十七年勤めあげました。横浜へ
引っ越しの日、持って行けない荷物をすべて
手放しました。クリーンセンターで、粉碎され
ていく家財道具をみて肩を震わしている姿は
忘れられません。

このとき、大学卒業（教育学部）を目前にし
た息子から、お坊さんになったと事後報告を
うけ、「そこまで自由な道を選ばせてはいない
と困惑しました。息子が唾を飛ばして仏教の
魅力を伝えても、「息子は息子」です。

さらには、遠方に、しかも姓を変えて、寺に
入ると聞いたときは、どれだけ悩んだでしょ
う。そんな、どうしようもない我が子も、数年
経てば「馬子にも衣裳」。周りのご門徒さん
のお姿を拝見するにつけ、「お前に務まるか心配」
から「ご門徒さんのために一生懸命やれ」に変
わっていききました。皆様に感謝です。

二人とも結婚し、孫にも恵まれましたが、嫁
や孫に対して、母らしいこと、ばあちゃんらし
いことをしてあげられない申し訳なさを心の
奥に抱いていたと思います。

どんなことがあっても、母はブレませんで
した。そんな母の愛情と苦悩が、今私が住職と
して務めさせていただく源泉です。

母の葬儀は「導師兼喪主」という奇妙な状況
でした。お寺の母が、衣一式を送ってくれまし
た。「母」を感じ、幸せを噛みしめながらお勤
めいたしました。

「念仏」は、私が仏（おや）を念う、ではな
く、仏（おや）が私を念う心との出会いです。

（住職）

真宗の法事 あれこれ

【称名念仏】

浄土真宗の仏事は「ナンマンダブツ」をよく
聞きますね。私たちにとって、意味の分からな
い言葉は「テクマクマヤコン」と同じように聞
こえます。ナンマンダブツを簡単に言えば、
「あなたのままでいいよ」

「願われていることに気がついておくれ」

「あなたのいのちを、丸ごと引き受けるぞ」

「かならず仏にならせるぞ」

という如来のよび声です。

さあ、これでにぎやかな法事に…とは、中々
ならないものです。なぜなら、称名念仏は
「意味の理解」ではなく「味わい」だからです。
少しずつ少しずつ一緒に…。



ちょっと あたまの こりほぐし

姿を見せない「それ」がどんなものか、人に説明しよう
とする途端に、「それ」は現れます。

「それ」は何でしょう？

※ヒント：皆さん持っています。答えは裏面です



おてらより

除夜のお勤め・ありがとう灯籠

日時：十二月三十一日（日）

十時三十分

除夜の鐘

日時：同日の十一時四十五分

その他：たき火・年越し「どん兵衛」、
温かいお茶、お菓子で、しみじみ
としたひと時をお過ごしくださ
い。

報恩講参り

参らせていただいておりますが、今年も
ずいぶん遅れてしまいました。ご心配
ご迷惑をおかけしてすみません。

無縁改葬のご案内

お寺の境内地にあるお墓について、使用
者が不明のお墓を撤去する手続きを開始
いたしました。当該墓に「プレート」を付
けました。情報のご提供を宜しくおねがい
いたします。

だいじょうぶなんだ

(中略)引きつづいて、梯 實圓和上の
ご法話をお聞かせいただきます。くり
返し、くり返しご聴聞ください。

『：あ、今夜帰ってね、仏さんにお参り
しなはるやろ、お参りしなはったらね、
ちよつとひとこと言いなはれ。「仏さま、
私は今度お浄土へ生まれるんですかど
うですか?」って聞いてみなはれ、いっぺん
阿弥陀さん、どない言いはるか聞いてみ
なはれ。必ず聞くんできせ。そしたら
どないおっしゃるか、...。』

しかしそこでね、はつきり聞こえてく
るのは南無阿弥陀仏という声が聞こえ
てくるはずだ。聞こえなんだから称えなは
れ。称えたら聞こえるだろう。なんぼ耳
が遠いからってね、わしも耳が大概遠い
んやけど、自分で言うてる声は聞こえ
ますよ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏
っていうたらお念仏の声は聞こえるわ。
これは仏さまが、「必ずたすけたるぞ、
安心しなさいや、私にまかせなさいよ」
と、こうおっしゃってくださっているこえな

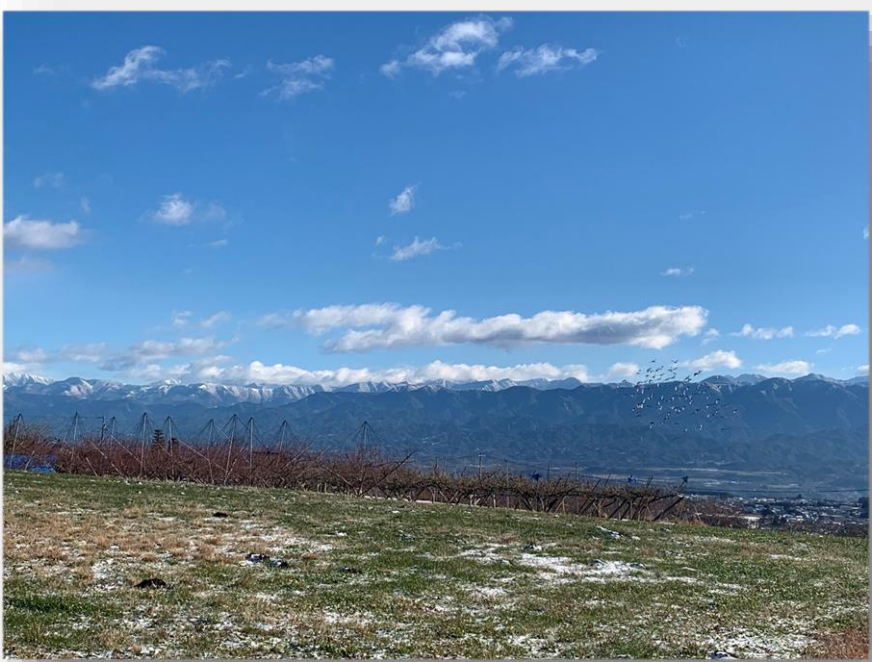
んですよ。これまあ、そう気がついたら
ありがとうございいますと言ったらええわ。
気いっかなんたら、黙ったってええ。た
すけるって言うてくれはんねんから、黙
ったってたすけてくれるわい。そうで
しよ。信心いうのは、私がしっかりするこ
とちやいませ。しっかりできるもんど違
うがな。先ほども言いましたようにあん
た、いつ気がつかんようになってしまっ
分からんで。しっかりしなはれて、「しっ
かりせよと抱き起こし」ってのは(戦友)っ
ていう歌の文句ですが、あれは、しっか
りしてるんだったら、抱き起こすことは
ないでしょう。抱き起こしてもらわんと
あかんようになったときは、しっかりで
きんわ。しっかりできんようになったら
介抱してくれる者がしっかりするしか
ないだろう。

から、如来さまから「まかせよ」。それが
ね、「御たすけ候へ」とたのみもうして
候(御文章)ってのは、「たすけてやる
ぞ」とおっしゃいますから、左様ならば
「御たすけ候へ」。こう日本語補っておい
たら分かるやろ。そうおっしゃるならば、
そこまでおっしゃるならば、あなたのお
心のままにおまかせいたします。よろし
く御願います。ただ、私は「ありがと
うございます」でこれでしまいだ。向こう
はたすけてやるぞとおっしゃっている。そ
れが南無阿弥陀仏という言葉ですよ。
御開山(親鸞聖人)はね、「撰取して捨
てざれば、阿弥陀と名づけたてまつる」
とおっしゃる。阿弥陀ちゅう名前って何
ちゅうことですか。「おれが引き受けた
から心配するな」という言葉が、あれが
阿弥陀仏という言葉の意味なんだ。撰
取して捨てないというのは、しっかりと抱
きとって、絶対に見放すことがないから、
安心して任せなさいとおっしゃる。左様
ならば、おまかせいたしますと、如来さ
まにおまかせしている相を信心という。
だからみなさんもね、『お領解文』あげ
るでしよ。「もろもろの雑行雑修 自力
のころをふりすてて 一心に阿弥陀如

来 われらが今度の一大事の後生 御
たすけ候へとたのみもうして候」、あの
「御たすけ候へ」と、「左様ならば仏さま
におまかせした」、あれはまかせたこと
なんだ。たすけてくださいってすがたん
じゃないんだ。すがたんなら、俺がすが
ってるからな、手の力が無くなったら抜
けてしまうで。しかし、たすけてやるっ
て向こうが抱きかかえているんだから、
おれが手離したって、大丈夫なんだ。
：』

※一部句読点、()、編者

星野親行『あたりまえの不思議3』



飯田・南アルプス